

重症心身障害者の日中活動のあり方について

小野寺潤一¹⁾

1) 青森県立あすなろ学園

Key Words : ①楽しい雰囲気 ②健康と快適
③褥瘡の防止

I. はじめに

平成14年4月より重症心身障害児(者)病棟が開設されたことを機に、在園している重症心身障害者に対し、日中の活動の場を充実させるため、何か適当なメニューを提供できないだろうかという試みからスタートした。今回、3年間の取り組みをまとめ、活動への検証を試みることにした。

II. 目的

重症心身障害者に対しベッドから車椅子に移乗することにより、褥瘡を防止する他に、日中の活動に音楽活動を取り入れる等、楽しい雰囲気を提供し、健康で快適な生活を送れるようにすることを目的とする。

III. 実施方法

1. 日時

- 1) 平日(月・木) 10:00~11:00 リラックスタ
イム(音楽鑑賞、整容チェック)
- 2) 平日(火・水・金) 10:30~11:30 身体運動、
音楽活動、製作活動、お茶会など

2. 人数

- 1) 対象者18名(平成17年7月1日現在)
- 2) 介助人数7名(うち看護師1名)

3. 場所

当園児童ホール

4. 内容

- 1) 開始10分前に病棟から移動(ベッドから車椅子
に移乗)
- 2) 朝のあいさつ、出欠確認、カレンダー、天気調
べ、新聞読み、あすなろ学園の歌
(以上で15分程度)
- 3) 今日のプログラム(40分程度)
- 4) 今月の歌、終わりのあいさつ(5分程度)
- 5) 終了後、病棟移動(車椅子からベッド移乗)

5. 記録方法

介助者がその日の受け持つ対象者を決め、その日のプログラムの項目と対象者の表情や状態を個人ごとに

記録する。

6. プログラムのメニュー(主なものを掲載)

1) 身体運動

ペットボトルボーリング、風船バレー、担架ブラン
コ、車椅子ダンス、ボール転がし

2) 音楽活動

音楽鑑賞、楽器に触れる、介助者と共にを行う合奏
演奏、ミニライブ鑑賞

3) 製作活動

季節行事に関する製作、介助者とともにを行うミニ
クッキング

4) リラクゼーション

音楽鑑賞、散策、整容チェック(爪きり、耳掃除)、
お茶会

5) その他

- (1) 重症心身障害者とその保護者同士の懇談
会(年2回)
- (2) 保護者と共にデパートに買い物(年1回)

IV. 結果及び考察

1. 活動の積み重ねに従い、重症心身障害者の表情が豊
かになる場面が増え、プログラムに対して様々な反応
を観察することができ、この結果を新しいメニュー作
りに役立てることができた。
2. それまで見られなかった個々人の趣向を知ることが
できた。
3. 通常の活動に加え、保護者との懇談会を開催するこ
とにより親交が深まったことで、保護者が入所者の状
況を詳しく知ることができ、職員との情報交換も綿密
になった。
4. 活動時間中に児童ホールを通る外来の保護者の方や
外部から来る方たちに自然と目に入るかたちになり、
いい意味での宣伝効果になった。

V. 反省点及び問題点

1. プログラムの実施記録を評価する時間が充分とれな
かったので、分析が不十分となった面がある。
2. 重症心身障害者の視点に立って行っているつもりだ
が、つつい職員の自己満足的なもので終始する危険
性がある。
3. これからさらに重症心身障害者の入所人数が増えて
くると、介助人数は変わらないので、例えば小集団に
分けることやより大きな集団でも可能なプログラムを
作成することなどを検討していく必要がある。